令和６年度

教　科　専　門　試　験

養　護　専　門

解答はすべて解答用紙に記入すること

1 次の問い（1）、（2）に答えなさい。

（1） 次の①～④の内容が正しければ○、間違っていれば×を書きなさい。

（1点×4＝4点）

① 足の裏には中足骨と脛骨を結ぶ足底腱膜があり、足のアーチ構造を支持している。

② 足根骨は不規則な形の小型の骨7個からなるが、とくに距骨と踵骨と呼ばれる骨が大きい。

③ 足関節を安定させるための靭帯は、外果に三角靭帯、内果に前距腓靭帯、後距腓靭帯、踵腓靭帯がある。

④ 人間の歩行周期は、踵が地面に接するところから始まり、足全体が接地し、最後につま先が地面を離れる。

（2） 次の①～⑥について、それぞれの説明から考えられる股関節・下肢に発生する疾患・障害の名称を下の語群A～Hから選び、記号で書きなさい。

（2点×6＝12点）

① 踵骨の骨端部がアキレス腱と足底腱膜に引っ張られることで血流障害を起こし、踵の後ろ側に痛みが生じる疾患。過度な運動により痛みが生じることが多く、安静にすることで痛みは和らぐ。

② 発症は概ね10～14歳の成長期で、まだ軟骨の部分が多くて弱い脛骨結節が、大腿四頭筋に繰り返し引っ張られるために骨や軟骨の一部が剥がれ、疼痛と腫脹を生じる。ランニング、ジャンプ、キック、シュート等の動作を伴うスポーツ活動が関係している。

③ 大腿骨頭が一時的に壊死を起こす疾患。発症は3～12歳頃であるが、最も頻度が高いのは4～8歳頃で男子に多く、股関節の痛みと跛行がみられる。小学生以下の子供が誘因もなく大腿～膝の疼痛を訴える場合は、本症を疑って股関節の動きをチェックする必要がある。

④ 生後の検診で繰り返しチェックや保育指導が行われるため、学校における健康診断において初めて見つかることは殆どないが、皆無ではない。子供の頃は痛みが無いことが多いので、歩き方や脚長差に注意しなければならない。

⑤ 中長距離走者に好発する。脛骨中央～遠位1/3の内側部の運動時痛が特徴的であり、運動終了後、疼痛は数分以内に消退する。治療としては運動制限、下腿後面筋群のストレッチング、筋力強化などが行われる。

⑥ 大腿骨頭のすぐ下にある骨端軟骨の部分は外力に弱く、骨頭に無理な力がかかることで発症する。小学校高学年～中学生期の肥満型の男子に多くみられる。急性型は外傷をきっかけにして突然強い股関節の痛みを生じ歩けなくなるが、多くを占める慢性型では跛行を主訴とし、疼痛は強くないものが少なくない。

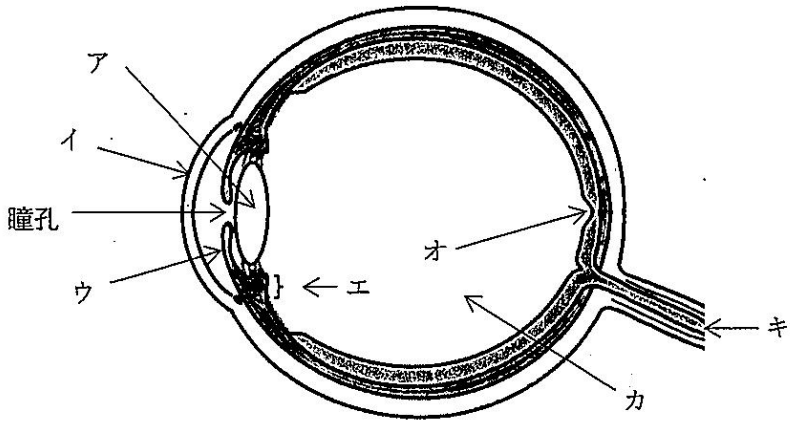
【語群】

A	ペルテス病	B	シンスプリント（過労性脛部痛）
C	セーバー病（シーヴァー病）	D	ケーラー病
E	発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）	F	フライバーグ病
G	大腿骨頭すべり症	H	オスグッド病

2 眼の構造と働きについて、次の問い(1)～(3)に答えなさい。

(1) 次の図は眼球の断面図である。ア～キにあてはまる語句を書きなさい。

(2点×7＝14点)



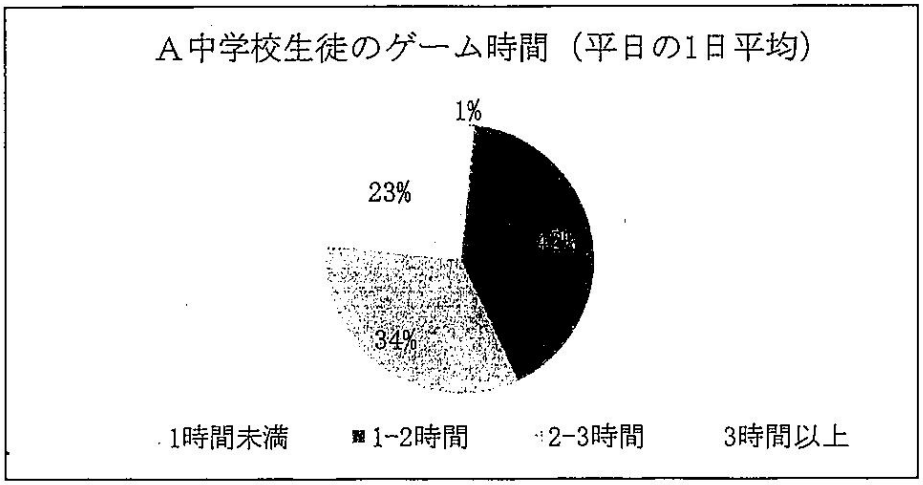
(2) 色を感じる仕組みについて、空欄ア～キにあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

(1点×7＝7点)

(　ア　)には光を受け取る(　イ　)と呼ばれる細胞がモザイク状に並んでいる。(　イ　)には、明るい環境で働く(　ウ　)細胞と、暗い環境で働く(　エ　)細胞がある。色を感じることができるのは(　ウ　)細胞で(　オ　)、(　カ　)、青の光に感度の良い(　キ　)と呼ばれる蛋白質が作られているからである。

(3) 公益財団法人日本学校保健会発行の「学校における色覚に関する資料」(平成 28 年3月発行)で述べられている内容について、次のようなグラフを提示する場合、誰もが見やすくなるようにするための「特性を踏まえた配慮」を、養護教諭の視点で3つ簡潔に書きなさい。ただし、グラフは白黒で作成するものとする。

(2点×3＝6点)



3 文部科学省発行の「児童生徒の健康に留意してＩＣＴを活用するためのガイドブック」(令和４年３月改訂版) で述べられている内容について、次の問い（１）～（３）に答えなさい。

（１） 次の①～⑤の内容が正しければ○、間違っていれば×を書きなさい。

（１点×５＝５点）

① 暗いところ、あるいは極端に明るいところで電子黒板やタブレットＰＣの画面を見ると、児童生徒の目の疲労を早めて円滑な授業の実施に支障をきたす可能性があるため、教室内の明るさを均一にすることが必要である。

② 児童生徒の姿勢がよい場合は、児童生徒の視線とタブレットＰＣの画面を直交する角度に近づけることで画面が見やすくなる。

③ 電子黒板で教材を作成するときは、暗い色の背景に明るい色の文字で表示するポジティブ表示にすると、電子黒板の画面の反射防止にも有効で見やすい。

④ 強い光を発するＩＣＴ機器を睡眠前に利用すると、入眠作用があるホルモン「コルチゾール」の分泌が阻害され寝つきが悪くなる。

⑤ 読み書きに適した机の高さとパソコン作業に適した机の高さは異なるため、パソコンの利用時のみ姿勢が悪くなる児童生徒がいる場合には、教員による注意喚起や指導、机及び椅子の高さの調整により対応する。

（２） ドライアイについて、空欄ア～ウにあてはまる語句を書きなさい。

（２点×３＝６点）

ドライアイとは、目の潤いを保つ涙が（ ア ）しやすくなる状態をいう。タブレットＰＣや電子黒板を集中して見続けると、（ イ ）の回数が減り、涙が目の表面を十分に覆うことができなくなり、ドライアイになりやすくなる。涙は、１日２～３ml分泌され、ゴミを洗い流したり（ ウ ）を届けたりと、目にとって重要な役割を果たしているため、ドライアイになると、しょぼしょぼする、充血、疲れ目をはじめ、さまざまな目のトラブルを引き起こしやすくなる。

（３） タブレットＰＣ使用時の、画面の映り込み防止と使いやすさへの配慮について、空欄ア、イにあてはまる語句を書きなさい。

（２点×２＝４点）

座席位置によって照明の具合が異なることから、画面の反射や画面への映り込みを防止するために、児童生徒が自分でタブレットＰＣの画面の（ ア ）や明るさを調整するよう指導する。

一般的には、夜に自宅でタブレットＰＣを使用する際には、昼間に学校の教室で使用する際よりも、明るさ（輝度）を（ イ ）ことが推奨されている。

4 文部科学省「保健室の備品等について（通知）」（令和３年２月）で述べられている内容について、次の問い（１）～（３）に答えなさい。

（１） 保健室について、空欄ア～オにあてはまる語句または数字を書きなさい。

（２点×５＝10点）

① 保健室は、学校保健安全法第（ ア ）条の規定により、健康診断、健康相談、（ イ ）、救急処置その他の保健に関する措置を行うために設けられるものであるから、これに応じた設備をすることが必要であること。

② 保健室は、使用に便利で（ ウ ）、（ エ ）の良好な位置に設けるとともに、地域の実態に応じて（ オ ）の設備を備えることが必要であること。

（２） 保健室に最低限備えることが適当である備品として示されているものを、①～③について、ア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で書きなさい。

（１点×３＝３点）

① 健康診断・健康相談用

ア ツベルクリン反応測定板

イ 座高計

ウ ペンライト

エ 握力計

② 環境衛生用

ア アスマン通風乾湿計

イ ＷＢＧＴ（暑さ指数）計

ウ カタ温度計

エ 扇風機

③ 一般備品

ア ストップウォッチ

イ 車いす

ウ 電話（通信機器）

エ 洗濯機

（３） 救急処置・疾病の予防処置用として保健室に最低限備えることが適当であるとされている備品を３つ書きなさい。

（２点×３＝６点）

5 救急処置について、次の問い(1)～(6)に答えなさい。

(1) 創傷（皮膚が損傷した状態）の救急処置の基本を3つ書きなさい。

(2点×3＝6点)

(2) ＲＩＣＥ法について、4つの頭文字で表す処置の内容をそれぞれ書きなさい。

(2点×4＝8点)

(3) 指が完全に切断された場合、切断された指を医療機関に持参する際の注意点を簡潔に書きなさい。

(2点×1＝2点)

(4) 破損したガラスや異物が体に深く刺さっている際の注意点を簡潔に書きなさい。

(2点×1＝2点)

(5) 熱傷の重症度の計測方法について、空欄ア～オにあてはまる語句または数字を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

(2点×5＝10点)

第Ⅱ度、第Ⅲ度の熱傷の場合は、熱傷面積を計測し、重症度を把握する。熱傷面積を大まかに計測する方法は、(　ア　)法、(　イ　)の法則、(　ウ　)の法則がよく知られている。(　ア　)法及び(　イ　)の法則は主に(　エ　)に適用する。(　ウ　)の法則は主に(　オ　)に適用する。

(6) 児童が給食のパンをのどに詰まらせ苦しそうにしている。次の問い①、②に答えなさい。

① 次の図のような動作を何というか書きなさい。

(2点×1＝2点)



② 自力で咳ができない場合、異物を排出させるために試みる方法を2つ書きなさい。

(2点×2＝4点)

6 次の問い（1）～（3）に答えなさい。

（1） 次の文は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編（平成29年7月）「第2章 第1節 教科の目標及び内容」の抜粋である。空欄ア～オにあてはまる語句を書きなさい。

（1点×5＝5点）

体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって（ ア ）を保持増進し（ イ ）を実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における（ ウ ）について理解するとともに，基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け，その解決に向けて思考し判断するとともに（ エ ）を養う。

(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，楽しく明るい生活を営む（ オ ）を養う。

（2） 次の文は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編（平成29年7月）「第2章第1節 教科の目標及び内容」の抜粋である。空欄ア～エにあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

（1点×4＝4点）

保健の見方・考え方については、疾病や傷害を防止するとともに，（ ア ）や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ，「個人及び社会生活における（ イ ）や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等の（ ウ ）の軽減や（ ア ）の向上，健康を支える（ エ ）と関連付けることであると考えられる。

（3） 小学校学習指導要領「第2章 第2節各学年の目標及び内容」、中学校学習指導要領「第2章第2節 各分野の目標及び内容」について、次の①～⑤の内容が正しければ○、間違っていれば×を書きなさい。

（1点×5＝5点）

① 小学校第3学年及び第4学年の「G保健」において、「(1)体の発育・発達」を第3学年で、「(2)健康な生活」を第4学年で指導することを示している。

② 小学校第5学年及び6学年の「G保健」において、「(1)心の健康」、「(2)けがの防止」は、第5学年で指導することを示している。

③ 中学校「(1)健康な生活と疾病の予防」において、生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることを、例えば、心臓病、脳血管疾患、歯周病などを適宜取り上げ理解できるようにすることを示している。

④ 中学校「(3)傷害の防止」において、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、ＡＥＤ（自動体外式除細動器）使用の心肺蘇生法を取り上げ、理解できるようにすることを示している。

⑤ 中学校「(4)健康と環境」において、健康を保持増進するためには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることを学習することを示している。

7 公益財団法人日本学校保健会発行の「学校において予防すべき感染症の解説」(平成30年3月発行)で述べられている内容について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

(1) 感染症の「症状・予後」について、①～④にあてはまる感染症の名称と病原体を書きなさい。

(1点×8＝8点)

① 急性結膜炎の症状で、結膜充血、まぶたの腫脹、異物感、流涙、めやに、耳前リンパ節腫脹などがある。角膜炎後の角膜混濁により視力障害を残す可能性がある。有効な治療薬はなく、対症療法が行われる。

② 顎下腺や舌下腺などの腫れは2～3日でピークに達し、3～7日間、長くても10日間で消える。痛みを伴い、酸っぱいものを飲食すると強くなる。また、急性膵炎を合併することもある。思春期以降では、精巣炎の合併が多い。

③ 発熱、頭痛、意識障害、嘔吐。時に劇症型感染症(ウォーターハウス・フリードリヒセン症候群)があり、急速に進行する。致命率は10%、回復した場合でも10－20%に難聴、まひ、てんかんなどの後遺症が残る。

④ 発熱、咽頭痛、頭痛、倦怠感、嚥下痛などの症状で始まり、鼻づまり、鼻出血、扁桃・咽頭の偽膜形成、声嗄れから呼吸困難、頸部リンパ節腫脹、心筋炎、呼吸筋まひなどに至る。

(2)「標準予防策 (standard precautions)」について簡潔に説明しなさい。

(2点×1＝2点)

8 学校環境衛生基準の判定基準(令和4年告示)には、「であること」とされる検査項目と、「であることが望ましい」とされている検査項目がある。次の(1)～(10)の検査項目の基準について、「であること」はAを、基準が「であることが望ましい」はBを書きなさい。

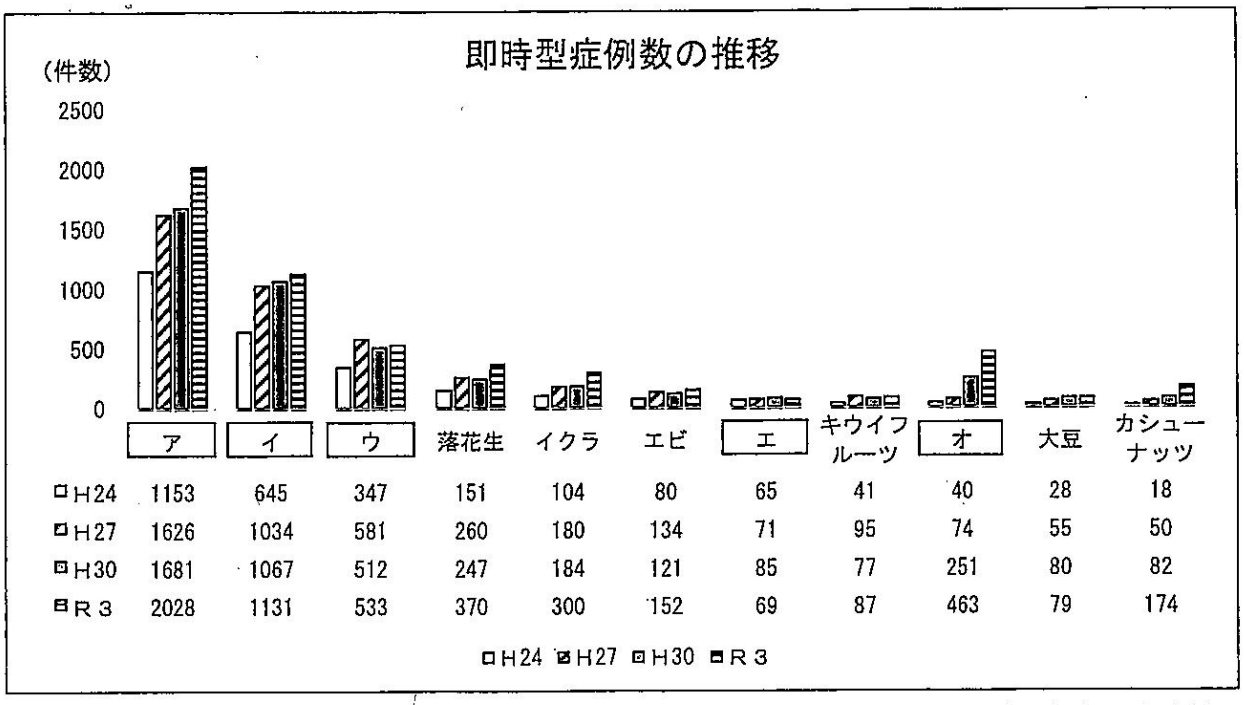
(1点×10＝10点)

(1) 換気
(2) 温度
(3) 相対湿度
(4) 浮遊粉じん
(5) 気流
(6) 一酸化炭素
(7) 二酸化窒素
(8) 揮発性有機化合物
(9) ダニ又はダニアレルゲン
(10) 騒音レベル

9 食物アレルギーについて、次の問い（1）、（2）に答えなさい。

（1） 次のグラフは即時型症例数の推移を表したものである。空欄ア～オにあてはまる食品名を書きなさい。

（1点×5＝5点）



（令和4年12月消費者庁食品表示企画課第4回食物アレルギー表示に関するアドバイザー会議資料を一部改変）

（2） 公益財団法人日本学校保健会発行の「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂）」で述べられている内容について、空欄ア～エにあてはまる語句を語群A～Hから選び記号を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

（1点×4＝4点）

（ ア ）アレルギー症候群は（ イ ）抗体が関係する（ ア ）粘膜のみのアレルギー症状を指すが、（ ウ ）一食物アレルギー症候群のことがほとんどである。シラカバやハンノキやブタクサなどの（ ウ ）のアレルギーがある児童生徒等がそれらの（ ウ ）抗原と構造が似た物質を含む生の果物や野菜を食べたときに、食後5分以内に（ ア ）内の症状が誘発される。これを（ エ ）という。

【語群】

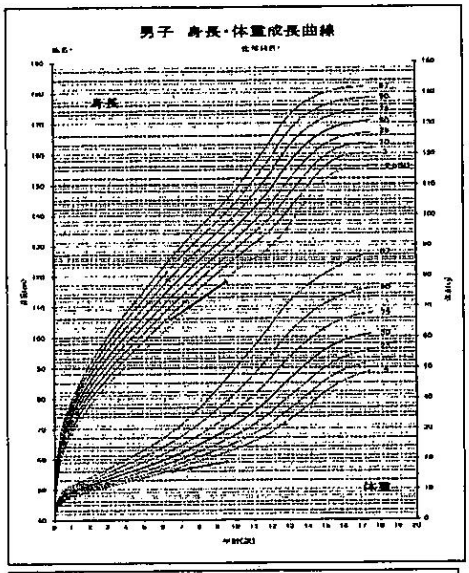
A 日光	B 花粉	C mRNA	D 運動誘発
E IgE	F 交差反応	G 鼻腔	H 口腔

10 健康診断について、次の問い(1)、(2)に答えなさい。

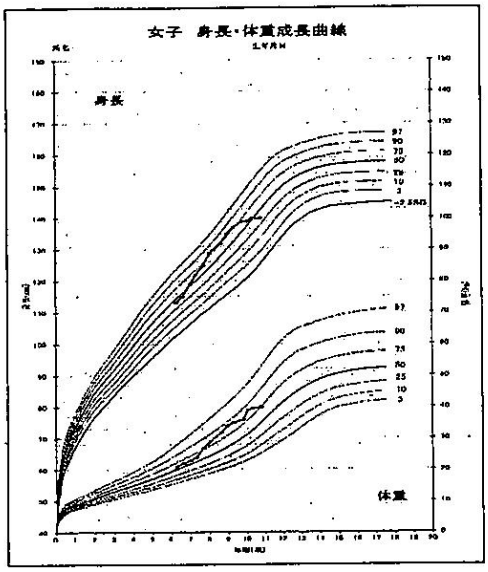
(1) 次の①～③の成長曲線で表される特徴を示す疾患の組み合わせをA～Dから選び、記号を書きなさい。

(2点×1＝2点)

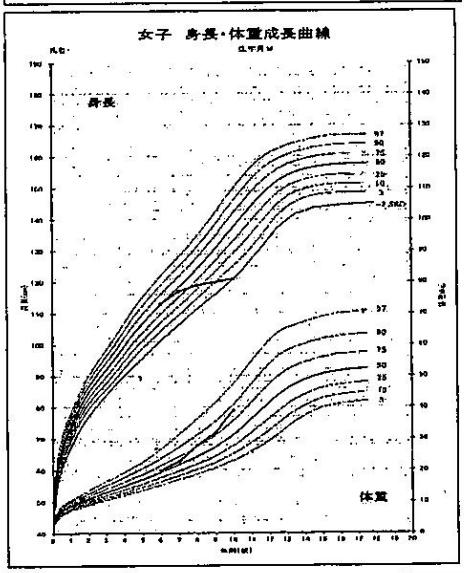
①



②



③



A	①成長ホルモン分泌不全性低身長症	②思春期早発症	③後天性甲状腺機能低下症
B	①思春期早発症	②成長ホルモン分泌不全性低身長症	③後天性甲状腺機能低下症
C	①後天性甲状腺機能低下症	②思春期早発症	③成長ホルモン分泌不全性低身長症
D	①成長ホルモン分泌不全性低身長症	②後天性甲状腺機能低下症	③思春期早発症

(2) 公益財団法人日本学校保健会発行の「児童生徒等の健康診断マニュアル　平成27年度改訂」(平成27年8月発行)で述べられている「結核の有無」の検査方法について、小学校・中学校の「問診による情報の把握」の問診項目6つのうち3つ書きなさい。

(2点×3＝6点)

11 次の問い（1）、（2）に答えなさい。

（1） 次の文は岩手県教育委員会発行の「岩手型肥満解消ぺっこアプローチ」（平成 30 年３月発行）を一部改変したものである。空欄ア～カにあてはまる語句を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

（２点×６＝12 点）

１ カミカミ度アップ作戦

○ 根菜類・きのこ類・豆類・海そう類など（ ア ）が多く含まれる食べ物を取り入れる。

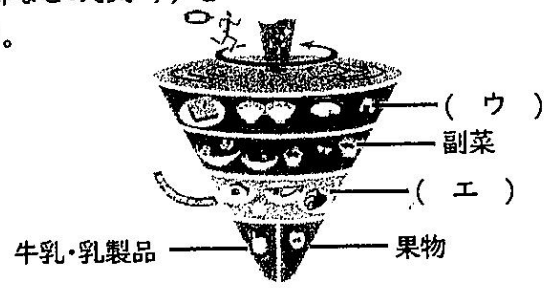
○ 小魚・ナッツ類・ドライフルーツ・フランスパンなど、（ イ ）のある食べ物を取り入れる。



２ ステップアップ朝ごはん

○ 簡単に栄養バランスを整えよう…「ぺっこアップ朝ごはん」
（ ウ ）と具だくさん汁に（ エ ）（肉や魚や卵などのおかず）をプラス！ 食事バランスガイドも参考にしてみよう。





≪食事バランスガイド≫

３ おやつ

おやつは楽しい時間ですが、甘いお菓子やスナック菓子ばかり食べていると、（ オ ）や（ カ ）の取りすぎにつながります。

（2） 次のビタミンについて、①、②に答えなさい。

ビタミンA　　ビタミンB_1　　ビタミンC　　ビタミンD

① ４種のビタミンを脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンに分けて書きなさい。

（１点×４＝４点）

② ４種のビタミンについて、主な欠乏症を次の語群ア～カからそれぞれ１つ選び、記号で書きなさい。

（１点×４＝４点）

【語群】

ア ペラグラ	イ くる病	ウ かっけ
エ 口角炎	オ 夜盲症	カ 壊血病

12 次の文を読み、問い（1）～（3）に答えなさい。

Aは、小学校1年生までは困ることなく学校生活を送ってきたが、小学校2年生になってから、授業中に突然動作が止まったり、10秒程度ぼーっとしたりする様子が1時間に何回か見られるようになり、学級担任は、授業に集中するよう注意をすることが多くなった。

ある日、Aが泣いていたので、学級担任が声をかけると、「ぼーっとしていることを友達にからかわれることが多くなって悲しい」と話し、Aが悩みを抱えていることが分かった。

学級担任が保護者に連絡をとったところ、母親もこのような状態を心配して受診し、Aはてんかんと診断されたと伝えられた。

（1） Aの健康相談を実施するにあたっての留意点を3つ簡潔に書きなさい。

（2点×3＝6点）

（2） てんかんと診断された場合、教職員で共通理解する内容を2つ簡潔に書きなさい。

（2点×2＝4点）

（3） 公益財団法人日本学校保健会発行の「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引ー令和3年度改訂ー」（令和4年3月発行）で述べられている健康相談の目的について、空欄ア～エにあてはまる語句を書きなさい。

（2点×4＝8点）

健康相談の目的は、児童生徒の（ ア ）の健康に関する課題について、児童生徒や（ イ ）等に対して、関係者が連携し相談等を通して課題の解決を図り、学校生活によりよく（ ウ ）していけるように（ エ ）していくことである。

令和６年度　養護専門科目　解答例

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

1

（1）　（１点×４＝４点）

①	×	②	○	③	×
④	○				

（2）　（２点×６＝12点）

①	C	②	H	③	A
④	E	⑤	B	⑥	G

2

（1）　（２点×７＝14点）

ア	水晶体	イ	角膜	ウ	虹彩
エ	毛様体	オ	中心窩	カ	硝子体
キ	視神経				

（2）　（１点×７＝７点）

ア	網膜	イ	視細胞	ウ	錐体
エ	杆体	オ	赤	カ	緑
キ	視物質				

※ オ、カは順不同

（3）　（２点×３＝６点）

境界線をはっきり示す
凡例を文字や記号で併記する
パターン模様を利用する

※ 明度を変えるでも可

令和６年度　養護専門科目　解答例

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

3

（1）　（１点×５＝５点）

①	○	②	○	③	×
④	×	⑤	○		

（2）　（２点×３＝６点）

ア	蒸発	イ	まばたき	ウ	酸素

（3）　（２点×２＝４点）

ア	角度	イ	下げる

4

（1）　（２点×５＝10点）

ア	7	イ	保健指導	ウ	通風
エ	採光	オ	冷暖房		

※ ウ、エは順不同

（2）　（１点×３＝３点）

①	ウ	②	イ	③	ア

（3）　（２点×３＝６点）

体温計	ピンセット	ピンセット立て

※ 剪刀、膿盆、ガーゼ缶等でも可

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

5

（1）　（２点×３＝６点）

傷口の洗浄	止血	傷口の保護

（2）　（２点×４＝８点）

R	けがをした部位を動かさないようにし、安静を保つ。
I	けがをした部位を氷水を入れた氷のうで冷す。
C	伸縮性のある包帯等で患部を軽く圧迫しながら巻く。
E	けがをした部位を心臓より高い位置に保つ。

（3）　（２点×１＝２点）

（例）切り落とされた指を清潔なガーゼで包み、ビニール袋に入れ、直接水に入れないようにして、氷水の入ったビニール袋に入れる。

（4）　（２点×１＝２点）

（例）異物を抜かずにそのままの状態で止血する。

（5）　（２点×５＝10点）

ア	手掌	イ	9	ウ	5
エ	成人	オ	幼児・小児		

（6）

①　（２点×１＝２点）

窒息のサイン

※ チョークサインでも可

②　（２点×２＝４点）

腹部突き上げ法
背部叩打法

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

6

（1）　（１点×５＝５点）

ア	心身の健康	イ	豊かなスポーツライフ	ウ	健康・安全
エ	他者に伝える力	オ	態度		

（2）　（１点×４＝４点）

ア	生活の質	イ	課題	ウ	リスク
エ	環境づくり				

（3）　（1点×５＝５点）

①	×	②	○	③	○
④	○	⑤	×		

7

（1）　（1点×８＝８点）

	名称	病原体
①	流行性角結膜炎	アデノウイルス
②	流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス
③	髄膜炎菌性髄膜炎	髄膜炎菌
④	ジフテリア	ジフテリア菌

※②の名称ははおたふくかぜでも可

（2）　（２点×１＝２点）

（例）糞便・血液・体液・吐物等に接するときには、素手で扱うことを避け、手袋をすること、必要に応じてマスクやゴーグルをつけること、接した後は手洗いをより丁寧に行うこと。

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

8　　（１点×10＝10点）

(1)	B	(2)	B	(3)	B
(4)	A	(5)	B	(6)	A
(7)	B	(8)	A	(9)	A
(10)	B				

9

(1)　　（１点×５＝５点）

ア	鶏卵	イ	牛乳	ウ	小麦
エ	ソバ	オ	クルミ		

(2)　　（１点×４＝４点）

ア	H	イ	E	ウ	B
エ	F				

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

10

（１）　（２点×１＝２点）

A

（２）　（２点×３＝６点）

本人の結核罹患歴	予防内服歴	家族の結核罹患歴

※ 高まん延国での居住歴、自覚症状・健康状態、BCG接種の有無でも可

11

（１）　（２点×６＝12点）

ア	食物せんい	イ	かみごたえ	ウ	主食
エ	主菜	オ	砂糖	カ	油

※ オ、カは順不同

（２）

①　（１点×４＝４点）

脂溶性ビタミン	ビタミンA　、　ビタミンD
水溶性ビタミン	ビタミンB_1　、　ビタミンC

②　（１点×４＝４点）

ビタミンA	オ
ビタミンB_1	ウ
ビタミンC	カ
ビタミンD	イ

受験校種		教科科目	養護専門	受験番号						得点	

12

（１）　（２点×３＝６点）

（例）児童生徒、保護者等が相談しやすい環境を整えること
相談者のプライバシーが守られるように十分配慮すること
継続支援が必要な場合は、校内組織及び必要に応じて関係機関と連携して実施すること

（２）　（２点×２＝４点）

（例）てんかんの症状や発作時の対処方法について
本人が安心して学校生活を送ることができるような配慮事項について

（３）　（２点×４＝８点）

ア	心身	イ	保護者	ウ	適応
エ	支援				